

藤木大地 (カウンターテナー) *Daichi Fujiki. Countertenor*

【1030 文字】

2017 年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場にライマン《メデア》ヘロルドで鮮烈にデビュー。

東洋人のカウンターテナーとして初めての快挙で、大きなニュースとなる。2012 年、第 31 回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてオーストリア代表として 2 年連続で選出、世界大会でファイナリストとなり、ハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第 1 位。2013 年、ボローニャ歌劇場にてグルック《クレーリアの勝利》マンニオに抜擢されてヨーロッパデビュー。国際的に高い評価を得る。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルが常に絶賛され、全国からのオファーが絶えない。

2017 年、ファーストアルバム「死んだ男の残したものは」をリリース。2018 年には、村上春樹原作の映画「ハナレイ・ベイ」の主題歌を担当、同時にメジャー・デビュー・アルバム「愛のよろこびは」(ワーナーミュージック・ジャパン) を発表。2020 年、東京文化会館にて企画原案・主演をつとめた新作歌劇『400 歳のカストラート』が大成功をおさめた。また、新国立劇場 2020/21 シーズン開幕公演 ブリテン《夏の夜の夢》にオーベロンで主演、続けてバッハ・コレギウム・ジャパンとのヘンデル《リナルド》でもタイトルロールを務め、その圧倒的な存在感と唯一無二の美声で聴衆を魅了し、オペラ歌手としての人気を不動のものにする。2021 年、3 枚目のアルバム「いのちのうた」をリリース。

2022 年から自身がプロデューサーを務めた横浜みなとみらいホールで、オーケストラ公演や室内楽公演を次々と企画。全国各地の劇場との連携事業や学生と共に創りあげる新作音楽劇を成功へ導くなど、その手腕に注目を集めている。

近年では、アメリカ 2 都市でのリサイタル (2024 年)、マカオ管弦楽団「マタイ受難曲」、調布国際音楽祭 2025 ヘンデル《ロデリンダ》ベルタリード、シンガポールでのリサイタル (2025 年)、新国立劇場 J.シュトラウス II 世《こうもり》オルロフスキー公爵 (2026 年) はじめとする世界各地での演奏活動、全曲を無伴奏で収録した 4 枚目のアルバム「A cappella」(テレビマンユニオン) のリリース、プロスポーツイベントでのセレモニー歌唱など、トップランナーと称されるにふさわしい活躍を続けている。デビューから現在まで絶えず話題の中心に存在する、日本が世界に誇る国際的なアーティストのひとりである。

洗足学園音楽大学客員教授。横浜みなとみらいホール 初代プロデューサー(2021-2023)。

2024 年度より大和高田さざんかホール レジデント・アーティスト。

Official Website : www.daichifujiki.com

【810 文字】

2017 年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場にライマン《メデア》ヘロルドで鮮烈にデビュー。東洋人のカウンターテナーとして初めての快挙で、大きなニュースとなる。2012 年、第 31 回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第 1 位。2013 年、ボローニャ歌劇場にてグルック《クレーリアの勝利》マンニオでヨーロッパデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。新国立劇場 2020/21 シーズン開幕公演では ブリテン《夏の夜の夢》にオーベロンで主演、続けてバッハ・コレギウム・ジャパンとのヘンデル《リナルド》でもタイトルロールを務め、その圧倒的な存在感と唯一無二の美声で聴

衆を魅了し、オペラ歌手としての人気を不動のものにする。2021年、3枚目のアルバム「いのちのうた」をリリース。2022年から自身がプロデューサーを務めた横浜みなとみらいホールで、オーケストラ公演や室内楽公演を次々と企画。全国各地の劇場との連携事業や学生と共に創りあげる新作音楽劇を成功へ導くなど、その手腕に注目を集めている。近年では、アメリカ2都市でのリサイタル（2024年）、マカオ管弦楽団「マタイ受難曲」、調布国際音楽祭 2025 ヘンデル《ロデリンダ》ベルタリード、シンガポールでのリサイタル（2025年）、新国立劇場 J.シュトラウスII世《こうもり》オルロフスキー公爵（2026年）はじめとする世界各地での演奏活動、全曲を無伴奏で収録した4枚目のアルバム「A cappella」（テレビマンユニオン）のリリース、プロスポーツイベントでのセレモニー歌唱など、トップランナーと称されるにふさわしい活躍を続けている。

デビューから現在まで絶えず話題の中心に存在する、日本が世界に誇る国際的なアーティストのひとりである。洗足学園音楽大学客員教授。横浜みなとみらいホール 初代プロデューサー(2021-2023)。

2024年度より大和高田さざんかホール レジデント・アーティスト。

Official Website : www.daichifujiki.com

【680文字】

2017年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場にライマン《メデア》ヘロルドで鮮烈にデビュー。東洋人のカウンターテナーとして初めての快挙で、大きなニュースとなる。2012年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。2013年、ボローニャ歌劇場にてグルック『クレーリアの勝利』マンニオでヨーロッパデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。新国立劇場 2020/21シーズン開幕公演では、ブリテン《夏の夜の夢》にオーベロンで主演、続けてバッハ・コレギウム・ジャパンとのヘンデル《リナルド》でもタイトルロールを務め、その圧倒的な存在感と唯一無二の美声で聴衆を魅了し、オペラ歌手としての人気を不動のものにする。2021年には3枚目のアルバム「いのちのうた」をリリース。近年では、アメリカ2都市でのリサイタル（2024年）、マカオ管弦楽団「マタイ受難曲」、調布国際音楽祭 2025 ヘンデル《ロデリンダ》ベルタリード、シンガポールでのリサイタル（2025年）、新国立劇場 J.シュトラウスII世《こうもり》オルロフスキー公爵（2026年）はじめとする世界各地での演奏活動、全曲を無伴奏で収録した4枚目のアルバム「A cappella」（テレビマンユニオン）のリリース、プロスポーツイベントでのセレモニー歌唱など、トップランナーと称されるにふさわしい活躍を続けている。デビューから現在まで話題の中心に存在する、日本が世界に誇る国際的なアーティストのひとりである。

洗足学園音楽大学客員教授。横浜みなとみらいホール 初代プロデューサー(2021-2023)。

Official Website : www.daichifujiki.com

【530文字】

2017年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場にライマン《メデア》ヘロルドで鮮烈にデビュー。東洋人のカウンターテナーとして初めての快挙で、大きなニュースとなる。2012年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。2013年、ボローニャ歌劇場にてグルック《クレーリアの勝利》マンニオでヨーロッパデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。2021年、3枚目の

アルバム「いのちのうた」をリリース。近年では、アメリカ2都市やシンガポールでのリサイタル、マカオ管弦楽団「マタイ受難曲」、調布国際音楽祭 2025 ヘンデル《ロデリンダ》ベルタリード、新国立劇場 J.シュトラウスII世《こうもり》オルロフスキー公爵はじめとする世界各地での演奏活動、全曲を無伴奏で収録した4枚目のアルバム「A cappella」(テレビマンユニオン)のリリース、プロスポーツイベントでのセレモニー歌唱など、トップランナーと称されるにふさわしい活躍を続けている。

デビューから現在まで話題の中心に存在する、日本が世界に誇る国際的なアーティストのひとりである。洗足学園音楽大学客員教授。横浜みなとみらいホール 初代プロデューサー(2021-2023)。

Official Website : www.daichifujiki.com

【500文字】

2017年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場にライマン《メデア》ヘロルドで鮮烈にデビュー。東洋人のカウンターテナーとして初めての快挙で、大きなニュースとなる。2012年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。2013年、ボローニャ歌劇場にてグルック『クレリアの勝利』マンニオでヨーロッパデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。近年では、アメリカ2都市やシンガポールでのリサイタル、マカオ管弦楽団「マタイ受難曲」、調布国際音楽祭 2025 ヘンデル《ロデリンダ》ベルタリード、新国立劇場 J.シュトラウスII世《こうもり》オルロフスキー公爵はじめとする世界各地での演奏活動、全曲を無伴奏で収録した4枚目のアルバム「A cappella」(テレビマンユニオン)のリリース、プロスポーツイベントでのセレモニー歌唱など、トップランナーと称されるにふさわしい活躍を続けている。

デビューから現在まで絶えず話題の中心に存在する、日本が世界に誇る国際的なアーティストのひとり。洗足学園音楽大学客員教授。横浜みなとみらいホール 初代プロデューサー(2021-2023)。

Official Website : www.daichifujiki.com

【300文字】

2017年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場にライマン《メデア》ヘロルドで東洋人初のカウンターテナーとしてデビュー。2012年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。2013年、ボローニャ歌劇場にてグルック《クレリアの勝利》マンニオでヨーロッパデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。デビューから現在まで絶えず話題の中心に存在する、日本が世界に誇る国際的なアーティストのひとり。

洗足学園音楽大学客員教授。横浜みなとみらいホール 初代プロデューサー(2021-2023)。

Official Website : www.daichifujiki.com

【200文字】

2017年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場にライマン《メデア》ヘロルド役で東洋人初のカウンターテナーとして鮮烈にデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。日本が世界に誇る国際的なアーティストのひとり。洗足学園音楽大学客員教授。横浜みなとみらいホール 初代プロデューサー(2021-2023)。

Official Website : www.daichifujiki.com

【140 文字】

2012 年、国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールでハンス・ガボア賞。同年、日本音楽コンクール声楽部門第 1 位。13 年ボローニャ歌劇場開場 250 周年記念のグルック《クレーリアの勝利》マニオで国際的な評価を獲得。17 年にはライマン《メデア》ヘロルドでウィーン国立歌劇場に鮮烈なデビューを果たした。

【100 文字以内】

2017 年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場にライマン《メデア》ヘロルドで東洋人初のカウンターテナーとしてデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。

【50 文字以内】

2017 年、ウィーン国立歌劇場にライマン《メデア》ヘロルドで東洋人初のカウンターテナーとしてデビュー。